

絶滅危惧類 アカウキクサ科

オオアカウキクサ

Azolla japonica Franch. et Sav.

全国カテゴリ：絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 常緑性。茎は密に羽状に分枝し、少数の根を生じ、根には根毛がない。葉は互生して密につき、鱗片状で長さ2mm前後。緑色の個体は秋に全体が紅色になり、先端部だけ残して枯れる。本県では赤褐色の個体が点在する程度になって越冬する。

【分布】 日本では本州、四国(東部まれ)、九州に分布し、日本固有種。

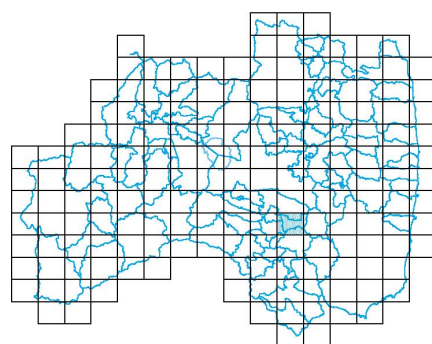
【県内の分布、生育状況】 玉川村でわき水の出る水田の縁と側溝に生育する。

【生育に影響を与えている要因】 農地開発、農薬汚染

【特記事項】 生育地周辺の環境を保全することが望ましい。

【主要文献】

倉田 悟・中池敏之・1987・日本のシダ植物図鑑・東京・5：790。



絶滅危惧類 ヤナギ科

コゴメヤナギ

Salix serissaefolia Kimura

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 落葉性の高木で、高さ25m、径1m以上になることもある。若枝は、はじめ灰色の細軟毛がある。成葉は狭長楕円状披針形、長さ4～7cm、幅9～12mm。細鋸齒縁で表面に光沢があり、裏面は粉白色、両面とも無毛。花期は4月上旬～5月上旬。花穂は円柱形で小さく、雄花穂は長さ1.5～2cm、雌花穂は長さ1～2cm、径2～5mm。シロヤナギとは花穂が小さく、子房の毛はあっても基部のみ、成葉が小さいことなどから区別される。

【分布】 関東・中部・近畿地方に分布する。

【県内の分布、生育状況】 県内では、県南地方にのみ生育し、分布の北限となっている。河畔林中や中州等に生育が見られる。

【生育に影響を与えている要因】 河川開発

【特記事項】 河畔林や中州等に生育するので、河川改修には十分留意することが望ましい。

